

## 2023年度(令和5年度)関西創価中学校 学校評価

### ◇ 教育基本方針

- <1>【平和】 創立者の哲学を学び実践する生徒を育てる
- <2>【尊重】 他者を認め、互いに励まし合う生徒を育てる
- <3>【自律】 自律性を高め、主体的に学ぶ生徒を育てる

### ◇ 教育活動・実践における重点項目

#### 〔I〕 教育理念に基づく「人間教育」の推進

##### (1) 創立者の哲学を学び、実践する

- 日々の教育活動や各種行事の取り組みを通して、創立精神を学ぶ。
- 社会で活躍する方による講演会や懇談会を通して、世界市民の資質を育てる。

##### (2) 互いを認め、励まし合う

- 感謝の心、他者への思いやりの心を育み、人とのつながりを深める。
- 「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む。

##### (3) 自律性を高め、主体的に学ぶ

- 「自ら学び、互いに学び合う」学習習慣を身につける。
- 探究プログラムを通して、広い視野を養う。

##### (4) ユネスコスクール・チャレンジ校としての活動を推進する。

- ユネスコの掲げる学びの4本柱「知ることを学ぶ」「為すことを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」「共に生きることを学ぶ」に基づいた取り組みを推進する。

#### 〔II〕 教育力向上への挑戦

##### (1) 授業力向上の取り組み

- 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業改善を推進する。
- 教員研修を計画的に受講する。

##### (2) 生徒理解の取り組み

- 生徒一人ひとりの状況を多角的に把握する。
- 保護者との連携を深める。

##### (3) 支援教育の取り組み

- 生徒の個別最適化を推進する。

#### 〔III〕 「安心・安全」の学園生活への実践

##### (1) 生徒の自主的活動を通して、意識改革を図る。

- 通学マナーの改善を図る。
- 生徒会活動の活性化を図る。

##### (2) 各種セミナーを通して正しい知識を身につけ、自己判断力の向上を図る。

- 食育、ネット、防犯・防災、薬物乱用防止等のセミナーを開催する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p><b>【生徒に対する取り組み】</b>            学年や学校の行事など、コロナ禍以前は講堂に集まって実施がほとんどであったが、オンラインの活用で、よりよい運営ができるようになった。            授業も、各教科で探究的な活動をより多く取り入れるようになった。最初は生徒に戸惑いもあったが、互いに話し合いながら学び、発表まで持っていくことが以前より上手くできるようになってきている。            生徒全員へのChromebookの配布により、授業中の学びだけでなく、生徒会やクラブなど種々の活用が見られ、生徒のICT機器の使い方もこなれてきている。</p> <p><b>【保護者に対する取り組み】</b>            保護者ポータルサイトや保護者メールによる連絡体制がうまく回っている。            また、さまざまな購入や英検申込の振り込みなども保護者ポータルから行えるシステムも導入を昨年度から導入したが、概ねうまく運用できている。            また、保護者会や授業公開、運動会、合唱祭など、保護者に来ていただく行事はその多くがコロナ禍以前のように制限をほぼなくして実施したが、特に問題はなかった。保護者からは、学校に来て子どもの様子を知る機会が多くなり大変好評であった。</p> <p><b>【教員に対する取り組み】</b>            昨年度に続き今年度も教育アドバイザーに来ていただいで授業をはじめ様々なアドバイスを受けるなど、積極的に研鑽に取り組んだ。            生徒指導、生徒サポート、教務に関する毎月の研修にも力を入れて取り組んだ。            探究的な学び、生徒一人一人に合った学び、チーム担任制など、生徒のために行う取り組みに関して、互いに学びあう機会、話し合いを多くとることで、教員のチームで仕事をする意識が高まってきている。</p>	<p>私の時代は探究発表会のようなものはなかった。今の生徒たちはそのような機会があってよかった。チームで発表が苦手な生徒にフォローしていく姿もよかった。パワーポイント、スライドも今後に必要な力なので、この時期からできるのもいいと思う。</p> <p>SUA研修は、勉強が苦手なメンバーも参加して変わることがあるので、くじびきで平等に機会があるのは、すごくいいと思った。</p> <p>学園に通うようになって、友達と一緒に頑張ると、楽しく、皆と一緒に頑張ってくれている。勉強も好きになってきているのは先生方の工夫とサポートのおかげです。</p> <p>保護者が連絡をとるのは、申し訳ないと感じていたこともあった、1年時の担任に相談してよかった。それ以降、成績も伸びてきた。あとは、信じて励ましていくしかないと思っている。            「遠いところになんで通わせるのか」と言っていた息子が「通わせてくれてありがとう」と言ってくれたので、送り出してよかった。</p> <p>地元の学校では、先生と連絡がなかなかとれないとよく聞く。学園では先生方に夏休みに家庭訪問もしていただきありがたい。引き続きお願いしたい。</p> <p>小学校に行った時に、振り返りの映像など、学校の様子が分かるのがすごい助かっていた。中学では学級の懇談会も年のスタートだけなので、気になっている。</p> <p>学園では、どのようなことを12年間通して学んでいくのか気になっている。</p>

【本年度の取り組みについて計画・実践・評価指標・自己評価】

中期的目標	今年度の重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価	
教育理念に基づく人間教育の推進	(1) 創立者の哲学を学び、実践する				
	ア	日々の教育活動や各種行事の取り組みを通して、創立精神を学ぶ	3大行事を中心に、研修行事や道徳、HR等で創立精神を学ぶ	各行事間で学習内容がかぶらないような、創立精神学習の計画的な実施ができたか	3大行事、研修行事や道徳での学習をほぼ計画的に行うことができた。
	イ	社会で活躍する方による講演会や懇談会を通して、世界市民の資質を育てる。	文化講演会、キャリアガイダンス、アメリカ創価大学生や卒業生との懇談会の実施	講演会、懇談会の機会を多くとれたか	社会で活躍する卒業生との懇談会、キャリア研修はできたが、全校的な講演会は少なかった。
	(2) 互いを認め合い励まし合う				
	ア	感謝の心、他者への思いやりの心を育み、人とのつながりを深める。	生徒・教員ともに日常的に自ら笑顔であいさつを行っていく	日常的にあいさつが行われているか	コロナ禍以降、マスク着用者が減り、互いに笑顔で挨拶する姿が多く見られた。
	イ	「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む。	1分間スピーチ、ビブリオバトル、暗唱大会、朗読コンテスト、対話会の実施	各種コンテストが実施されたか	朗読コンテストが今年再開。ビブリオバトル、英語暗唱大会同様、みんな頑張って取り組むことができた。
	(3) 自律性を高め、主体的に学ぶ				
	ア	「自ら学び、互いに学び合う」学習習慣を身につける。	学び合い授業の推進、各自が目標を持った学習への取り組みを推進する	自分が学ぶだけでなく、互いに学び合う姿が授業中に多く見られるようになったか	一斉授業だけでなく、話し合い、グループ学習、教えあいが授業の中でかなり取り入れられ、主体的な学びは大きく前進した。
	イ	探究プログラムを通して、広い視野を養う。	新たに「探究推進委員」を設置し、年間を通して、主体的対話的に学ぶ機会を体系化する	探究の取組が単発ではなく、年間を通して計画的に行われているか	探究推進委員2年目となり、取り組みがさらにブラッシュアップされた。探究発表会にも生徒は主体的に取り組み、保護者の反応も好評であった。
	(4) ユネスコスクール・チャレンジ校としての活動を推進する。				
	ユネスコの掲げる学びの4本柱「知ることを学ぶ」「為すことを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」「共に生きることを学ぶ」に基づいた取り組みを推進する。	ユネスコの理念を学び、実践する学校を目指す	ユネスコの理念を学び、実践が行われているか	特に「ユネスコの理念」と強調して学びを進めることはなかったが、もともとユネスコの理念と創価教育は共通する点が多いため、内容としては概ね推進・実践できている。	
教育	(1) 授業力向上の取り組み				

中期的 目標	今年度の重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価	
力 向 上 へ の 挑 戦	ア 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業改善を推進する	学び合い授業などの推進、研修の実施、日常的に互いの授業を参観しあう取り組みを行う	教員、生徒へのアンケートの実施による評価を行う	生徒の授業評価はおおむね良好であった。互いの授業を参観しあう取り組みは、日常的に行われるようになってきた。	
	イ 教員研修を計画的に受講する。	月例研修の校内実施、外部研修への参加推進と校内研修の充実に取り組む	月例研修実施に加え、Find!アクティブラーナー(web研修)の推進、研修受験者の増加を目指す	校内月例研修は今年も充実していた。外部研修(web研修を含む)や研修に行った先生を中心とした教員間の学びは増加している。	
	(2) 生徒理解への取り組み				
	ア 生徒一人ひとりの状況を多角的に把握する	担任や副担任、学年主任、クラブ顧問がなど年に何度か全生徒と面談を行う	担任は1学期は必ず面談実施 他は随時行う 実施率100%を達成できたか	全担任が達成 日常的に先生が生徒と懇談する姿が多数見られた。	
イ 保護者との連携を深める	年2回の保護者面談週間による面談を実施	全員実施(オンライン実施を含む)できたか	100%達成した。オンライン懇談が定着したことで時間場所の自由度が増した。		
(3) 支援教育への取り組み					
	生徒の個別最適化を推進する	サポート部の活動の充実(支援会議・教員研修の実施)、個別支援計画の作成	毎週の支援会議の実施、SSC、SSWの連携を充実させる	支援体制も支援に関わる人数も大幅に改善され、保護者満足度も向上した。	
安 心 安 全 の 学 園 生 活 へ の 実 践	(1) 生徒の自主的活動を通して、意識改革を図る。				
	通学マナーの改善を図る	安全セミナーを実施する マナー改善のための指導を日常的に行う	無事故を達成できたか 安全セミナーが開催されたか 生徒一人一人にマナーに関する意識が高まり、行動できたか	安全セミナーを実施した。 生徒の大きな事故はなかった。 通学マナーは良くなっている。4月の下校指導により力を入れる必要がある。	
	生徒会活動の活性化を図る	生徒会活動をもっと生徒中心に行われるように、委員会活動形態を変更する	新たな委員会が機能したか 生徒会による取り組みが従来通り機能しているか	生徒会執行部、議長団は主体的に活動できた。 委員会は、概ね主体的な活動が進んだ。	
	(2) 各種セミナーを通して正しい知識を身につけ、自己判断力の向上を図る。				
	食育、ネット、防犯・防災、薬物乱用防止等のセミナーを開催する	食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止などの各種セミナーの実施	食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止などの各種セミナーの100%実施ができたか	100%実施できた。オンライン実施では、資料もしっかり作りこまれていて、大変好評であった。	

### 【まとめと改善点】

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・指導計画・改善方策および学校運営のあり方について、以下にまとめました。

## 1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

学校教育目標においては、生徒、保護者の声、教員とりわけ良く研修に参加している若手の教員の意見を積極的に聞き、昨今の教育情勢をよく見極めたうえで、さらなる生徒の健全な育成のため、より具体的な教育目標を掲げていく。

目標に示した各項目については、なお一層、その成果を上げるための計画および具体的な改善方法を全教員が主体的に検討するとともに、「育てたい学園生像」を中心に据え、全教員が一体となって更なる学校変革を推進していく。

### ① 教員の資質向上

忙しい教員の資質向上のために「Find!アクティブラーナー」のweb研修を推進するとともに、研修に行った教員からの研修内容の共有・学びあいの場を積極的に設けるなど、人材育成の体制を整え、チーム力のある教員集団を目指す。

校内や東西キャンパスで実施される若手、中堅の研修など定期的を開催するとともに、より良き学園建設のための検討を皆が主体的に行っていく雰囲気を作る。

また、各種研修の告知を積極的に行い、個々の研修の機会拡大と充実を図る。

### ② 授業充実

英語、数学の授業では、生徒一人一人が自分に合った学びを選択し、充実した学びを行う。この一年間をかけ、その取り組みから他教科も学び、来年度の授業の在り方を模索していく一年とする。

### ③ 読書教育の充実

ビブリオバトル開催などを中心に、「子供の読書活動優秀実践校」、「朝の読書大賞受賞校」として、生徒全員が積極的に読書へ取り組めるような努力、工夫を一層進めていく。

また、授業での図書館の利用を積極的に進め、手軽に本に親しめるよう学級文庫の更なる充実を図る。

### ④ 創立精神学習の充実

3大行事を中心に、創価教育の基本となる創立精神を3年間で系統的に学ぶプログラムを作成し、計画的に学ぶようにする。

アーカイブ資料を授業でも活用できるよう推進する。

また、行事の取り組みを通じて、心の育成を更に推進し、実行力・実践力の向上に努める。

### ⑤ 生徒の評価活動の充実

生徒の主体性・積極性・創造力等を培うため「主体的・対話的で深い学び」の実践を推し進め、研修やセミナーへの積極的な参加、研究授業の実施、公開授業の取り組みなどを通じて、教員間に「授業力向上」の気風を定着させることを目指す。

## 2. 今後の学校運営のあり方

世界は今、大きく変化している。この激動の現代において、これからの教育には、国内外で進行する大変革の波に挑み、歴史的変動の時代を切り拓いていく日本人を育成することが求められる。

「最大の教育環境は教師自身である」とは「創価教育の精神」であり、教員の資質向上こそが「学校教育力」の基礎と言える。

本校では創立精神や教育方針を根幹に据え、ぶれない「育てたい学園生像」を教職員・生徒・保護者と共有したうえで、教育活動を展開していきたい。そのために、今年度も以下の3点を特に意識し取り組んでいきたい。

一、保護者ならびに学校を支えてくださっている関係者の方々による評価を謙虚に受け止め、常に改善に努めていく。

一、教育内容の充実を一層図り、「育てたい学園生像」に即して学校運営を見直していく。

一、教員の研修参加を推奨し、教員の資質向上に努め、学校全体の教育力向上に一層努めていく。